ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

第 59 号

2016. 5. 2
本学 筑大図

再発見される中原中也
——大岡昇平「中原中也伝」論——……佐藤　元紀（　1）

指示詞コノ・ソノの予測裏切り性
——ハ・ガとの関係から——……堀内　　萌（左 1）

パネルディスカッション「日本近代の家族の表象をめぐって」

国語教科書に現れる親族呼称の変遷……田村　貴広（左 13）

小学校における家族像
——国語科と他教科の比較から——……大沢貴代美（左 23）

海外で読む「日本の家族」
——江國香織『綿菓子』から見えるもの——…平石　典子（左 33）

平成28年３月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合は電子データを添えて御投稿下さい（原稿と電子データは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日です。

一、本誌の論文は、附属図書館の電子図書館システムに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語専攻
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただいております。御了承下さい。

編集後記

遅ればせながら、第五十九号が刊行のはこびとなりました。本来は平成二十七年二月にお届けいたすべきところ、諸般の事情で刊行が遅延いたしましたことを、まずもってお詫びを申し上げます。

今回の号では、矢澤会長の発案で開催したシンポジウムの内容を盛りこみました。これまでの大学の研究はどちらかというと専門を深く狭くの傾向が評価されてきた部分がありました。もちろん、それは専門分野の研究の振興に不可欠のことですが、研究の学際化と国際化は文系の学術研究成果を社会にむけて発信していくためには不可避の要素です。そのためにも、本学会ならではの専門の研究領域をこえた活動を今後もますます実施していかなくてはならないものと考えています。

あわせて、新進気鋭の若手の執筆者による投稿論文を掲載することで、日本語・日本文学の研究の大学や社会における意義をより明確に発信する役割をはたせたのではないかと考えております。

（編集委員長　石塚）

平成二十八年三月三十一日印刷
平成二十八年三月三十一日発行
〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語専攻
編集・発行　筑波大学日本語日本文学会
代表者　矢　澤　真　人
印刷所　第一印刷株式会社
☎〇二八二（三一）一五五一